

現状・課題等

郷土博物館の現状・課題

郷土博物館は、「戸田市の歴史資料等を収集・保管し、あわせて資料の調査研究を行い、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与する」ため、昭和59（1984）年に開館し、40周年を迎えた。開館以来年数を重ねる中、新たな来館者層の開拓が求められている。

アートミュージアムの取組

市民がアートに触れる機会を増やすことで、文化芸術活動の促進を図る。市民等の作品を展示する機会を増やすことで、文化芸術活動に携わる市民の意欲向上につなげる。



郷土博物館では企画展のほか、関係団体との連携によるアート展示に取り組み、新たな博物館の魅力として外部に発信している。

企画展

- 戸田市所蔵絵画展
- 戸田の昔ばなし原画展



連携展示

- 戸田翔陽高等学校写真部写真展
- 戸田かけはし高等特別支援学校アート展
- 戸田市障がい者アート展



文化芸術施策の推進に係る市長公約も踏まえ、郷土博物館における常設的なアートミュージアム設置について検討を行う。

常設的なアートミュージアム設置の検討

既存博物館事業の継続とアートミュージアムの展開

- ①郷土博物館の調査・研究成果を還元する企画展等の開催、開館以来の事業の大きな柱である博学連携事業（博物館授業）の継続を踏まえる必要がある。
- ②改正博物館法の目的にある「文化芸術基本法の精神に基づき」、博物館が地域の文化芸術の一拠点である文化施設として、今後アートミュージアム事業を展開していくことも考慮する。

郷土博物館協議会（R6.10月、R7.2月）での意見の概要

- ・市展や文化会館ギャラリーとの区別化をする工夫や、コンセプトの整理が必要。
- ・郷土博物館に途中からアート的なものを入れる方法の検討。
- ・美術系専門職員の採用も必要ではないか。
- ・美術系のグループは多いので、貸しギャラリーの機能とするのが有効ではないか。
- ・博物館内に設置する場所としては、特別展示室前ロビーが候補として考えられる。

設置場所候補：特別展示室前ロビー

対象面積は約35m²。
プラネタリウム投影機の撤去も含め、必要スペースを確保。
独立のスペースのため、常設的なイメージ付けを行いやすい。
市民が文化芸術活動の成果を気軽に発表できる場として設ける。

特展示室前ロビー（赤枠内）



【改修等費用概算】

約20,600,000円（税込）

【主な改修項目等】

- ・展示ケース等一式の調達
- ・展示パネル等一式の調達
- ・スポットライトの新設、調達
- ・プラネタリウム投影機の撤去、移動
- ・現場施工費、現場管理費、諸経費等



想定されるアートミュージアムの課題

- 一般貸しギャラリーの運営
- 市所蔵美術作品の取扱い
- アートミュージアム全般のコーディネート